

水量、最深積雪)「東北日別値2000」に附属した宮古湾沿岸水温観測資料(1904年から2000年)を解析した。宮古湾沿岸水温の平滑値が12°C以下を低温イベントと定義すると、1943年4月～1945年8月と、1983年9月～1985年10月の2回の低温イベントが見いだされた。後者は三陸沖の親潮面積の増大と符合していた。

### 7. 宮城県の西よりの強風 (NHM を用いた検討)

加藤 廣 (仙台管区气象台)

宮城県の西よりの強風についてNHHM(非静力学モデル)を用いた数値実験を行い、発現機構と地域性について検討を行った。この結果、宮城県における西よりの強風発現時の風分布は、hydraulic jumpを伴う比較的狭い範囲の強風域と地形に沿って下降しながら吹き抜ける広範囲の強風域との大きく分けて2種類の強風域とこれらの影響を受けた逆・弱風域からなることが確認された。これらのことは、過去の調査でも指摘されていることと共通点が多い。

### 8. 非静力学モデルによる雷

白川栄一 (仙台管区气象台)

雷、特に落雷の予報は生活情報として、また防災情報としても重要な情報である。これまでは、その予報は安定度などから間接的に行うものであった。しかし、気象庁の次期ルーチンモデルである、非静力学モデルに詳細な雲物理過程を組み込んだ数値予報モデル(NHM)では、より直接的に雷を予報できる可能性がある。また、直接観測の難しい、雲の中の物理構造に対するNHMの雲物理過程を、雷という観測結果から検討することは重要であると考えられる。

### 9. MRI/JMA オンライン3次元化学輸送モデルによる成層圏オゾン再現実験

\*宮崎和幸(茨城大学大学院理工), 岩崎俊樹(東北大学大学院理学研究科), 千葉 長, 柴田清孝, 関山剛, 折戸光太郎(気象庁気象研究所)

成層圏オゾンなど大気微量成分の変動機構を理解する事を目的とし、成層圏オゾンの過去の再現・未来の予測を成し得る実況監視システムの開発が行っている。このシステムに採用される、大気大循環モデルと化学輸送モデルを並列に実行する手法“オンラインモデル”の問題点を考察する。

## 新刊図書案内

表 題	編 著 者	出 版 者	出版年月	定 価	ISBN	備 考
尾瀬の気候	菊地慶四郎	上毛新聞社出版局	2002.11	¥1,715	4-88058-854-7	
地球環境年表2003 地球の未来を考える	インデックス株式会社	丸善株式会社出版事業部	2002.11	¥2,400	4-901091-19-0	
日本の気候 I 最新データでメカニズムを考える	気候影響・利用研究会	二宮書店	2002.11	¥2,800	4-8176-0192-2	吉野正敏監修
アラスカの氷河 中谷吉郎紀行集	渡辺興亜	岩波書店	2002.12	¥700	4-00-311243-1	岩波文庫 緑124-3
日本の気候	倉嶋厚	古今書院	2002.12	¥2,800	4-7722-5072-7	
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク	中央法規出版	2002.12	¥1,800	4-8058-4440-X	2000年刊の改訂版

注：表中で定価はすべて本体価格です(特記したものを除く)。